（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	富里市簡易マザーズホーム			
○保護者評価実施期間	令和7年1月15日		～	令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	31	（回答者数）	27
○従業者評価実施期間	令和7年1月15日		～	令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5	（回答者数）	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月22日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	母子（親子）通園であることから、子どもの特性や関わり方、支援の目的等を保護者が知ることができる。	療育に参加する中で子どもとの関わり方を知ってもらう。 目的意識を持って療育に参加してもらえるよう、日々の活動や課題活動のねらいを伝えている。	利用者が安心して療育に参加できるよう、職員ひとり一人が積極的に研修等に参加し、自身の資質向上に努める。また、ケースカンファレンス等にて療育の在り方について検討し、より良い療育ができるよう努める。
2	保護者同士の繋がりができる。 共感し合えることで育児に対する不安等が少なくなる。	保護者同士の交流や情報交換ができるよう、親子の分離時間を設けている。 異クラスの保護者が交流する機会を設けている。 日頃、療育に参加できない家族が交流する機会として夕涼み会を年１回実施している。	親子分離の時間設定がされていないクラスについても保護者同士が交流できる時間を設定する。
3	集団による療育だけでなく、担当職員による個別支援（指導）、言語聴覚士による言語指導を実施している。 公認心理師、作業療法士、理学療法士による専門的指導を実施している。	専門的指導実施時、担当職員が資料を作成、提示することで職員間の情報共有に繋げている。	担当職員による個別支援（指導）を他の職員が見学し、支援（指導）内容や方法について話し合う機会を設ける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の経験年数が浅い。	人事異動等によるもの。	支援者として十分なスキルを得るために時間を要することを人事担当に伝えていく。 園内研修を実施したり、経験を積んだ職員が支援方法等に関する相談にのることで資質向上に努める。
2	施設の修繕を要する時がある。	築年数が古い。	職員で修復可能な場合は適宜対応し、無理な場合は所属課と管理委託している社会福祉協議会に伝える。
3	各種マニュアルや指針等の周知が不足している。	各種マニュアル等の作成担当職員からの発信が少ない。	職員に対しては研修会等にて周知する。 利用者に対しては施設内に掲示されている各種マニュアル等に関心を持ってもらえるよう、各種マニュアル等の概要や掲示場所を文書等で知らせる。